

【神奈川区】令和7年第3回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和7年9月5日 10時00分～11時15分
場 所	神奈川区役所 本館5階大会議室
出席者	<p>【座長】小松 範昭 議員 【議員：4名】藤代 哲夫 議員、中山 大輔 議員、田中 紳一 議員 宇佐美 さやか 議員、竹内 康洋 議員</p> <p>【神奈川区：24名】鈴木 茂久 区長、小林 悅夫 副区長、伊倉 久美子 福祉保健センター長、茨 志麻 福祉保健センター担当部長、小野範子 福祉保健センター医務担当部長、山下 隆幸 神奈川土木事務所長、城田 裕司 災害対策担当部長 ほか関係職員</p>
議 題	1 令和6年度 神奈川区個性ある区づくり推進費決算状況について 2 令和7年度 神奈川区個性ある区づくり推進費執行状況について 3 令和8年度 神奈川区区づくり予算編成の基本的考え方（案）について
発 言 の 要 旨	<p>【議題1】</p> <p>宇佐美議員 1頁の「決算調書」の「2 内訳（1）自主企画事業」の中で、「I 誰もがいきいきと暮らし続けられるまちづくり」の主な増減理由の記載「外部人材から職員による訪問に切り替えたことによる児童虐待防止対策事業の残」について、説明の中では、局事業の実施に切り替えたと言っていたが、今後は区で行わないということか。</p> <p>小林副区長 令和6年度に新たに局で、出産・子育て応援事業が開始され、会計年度任用職員が配置されて実施したことによる個性ある区づくり推進費の残となります。</p> <p>宇佐美議員 財布が変わったということ。次の「II 地域がつながり魅力あふれるまちづくり」の増減理由「地域への専門家派遣回数の減等による地域福祉保健活動推進・支援事業費の残」だが、何故派遣件数が減ったのか。</p>

栗山福祉保健課長 地域福祉保健計画を各地区で策定していただくにあたり、アドバイザーを派遣できるように予算を組みましたが、アドバイザーがいなくても策定できる状況が多くあったので、残となりました。

宇佐美議員 各地区の皆さんのが自分たちだけで策定したのは、すごいことだ。次に 10 頁「5 市立保育所地域交流事業」の「(5) 防災意識向上推進事業」が新規で始まったようだが、神大寺にあった保育所の運営主体が山梨県にあり、神奈川区の状況を全く知らない状況で運営し、こどもたちの避難に問題があった状況を考えると、事業を進めていくことが難しいと考える。まず、その保育園がどうなったか、また、今後どのように進めていくかと考えているのか。

松本学校連携・こども担当課長 過去の経緯については、手元に資料がないため、改めて確認させていただきます。保育施設については、毎月必ず避難訓練を実施することが法令で決まっていますので、基本的には、各園がそれぞれの工夫をしながら、いろいろな災害に対応する避難訓練を実施しているものと思います。

宇佐美議員 国の保育士の配置基準に横浜市が上乗せしているのは、承知しているが、現役の保育士の話を聞くと、1人の保育士が1歳児を3人抱えては、避難できないと言われた。防災意識の向上というが、意識の問題だけでは済まないことがある。実際に毎月1回避難訓練をしなければいけないと言われても本当に出来ているのか。今日は、雨台風で風はないが、風があった時に地震が起きないとは限らない。その中で保育士がこどもたちの命をどう守るのか。やはり、現場に足を運んで、一緒に取り組んで欲しい。

次に、11 頁「6 保育所・放課後キッズ・児童クラブ等対応力向上支援事業だが、放課後キッズの問題だが、学校によっては、教室にこどもがあふれて大変だという話を聞いている。同じような状況の場所が多くあるのではないかと思うが認識しているか。

松本学校連携・こども担当課長 学校により人数の多いところ等は、工夫が必要という状況になっています。キッズが専用で使える部屋を確保

するのが基本となります、他に活動場所が必要な場合は、法人と学校で相談していただき、お借りできる教室を少しずつ増やしている状況です。学校によっては、教室の余裕が少ないところもありますので、必要に応じて区役所が法人と学校の間に入り調整させていただいている

宇佐美議員 校庭の取り合いもあると聞いている。そこも改善をして欲しい。次に30頁の「23 地域防災力向上事業」だが、地域防災拠点になっている学校の体育館へのエアコンの設置状況はどうなっているのか。

宍戸総務課長 エアコンの体育館への設置状況ですが、菅田の丘小学校、神大寺小学校、中丸小学校、三ツ沢小学校、白幡小学校、西寺尾小学校、西寺尾第二小学校、子安小学校の8校が整備済みとなっています。

宇佐美議員 8箇所とは、少ないのでないか。全体の数から考えると整備が遅れていると思う。この後の整備の段取はどうなっているのか。

宍戸総務課長 教育委員会でも学校の体育館へのエアコン設置を進めていると聞いていますので、区からも要望をあげていきたいと考えています。

宇佐美議員 早めていくという方向性は承知している。この夏場の暑さの中避難することを想像するとぞつとする。区からも強く要望して欲しい。また、32頁「(6) 災害時のペット対策」の「ア(イ)」で災害時ペット対策の推進を8拠点で支援したとあるが、防災拠点がたくさんある中で、今後、どのように増やしてこう考えているのか。

梅田生活衛生課長 ペットの災害対策については、昨年度、一時飼育場所を各拠点で検討していただきました。各拠点に合わせて支援を進めていく必要がありますが、8拠点については、拠点の方から手を挙げていただき、相談があり支援しています。我々も支援をしていきたいと考え

ていますので、運営委員の総会や拠点の担当職員に声かけをしてもらうなど、いろいろな啓発媒体を使って、広報を進めていこうと考えています。

宇佐美議員 運営委員会の気持ち次第ではなく、行政側からアプローチの仕方を考えて欲しい。次に35頁の「25 交通安全対策事業」だが、スクールゾーン対策協議会から話を聞いて、車が飛ばしてくるところに実際のハンプでなくとも、イメージハンプ、立体に見えるシールを設置してもらえないかという声がある。こういった声は他にあがってきてないか。

川崎土木事務所副所長 スクールゾーンの速度抑制対策につきましては、各スクールゾーン協議会からたびたびご意見をいただいています。イメージハンプは、一時的な効果は期待できますが、効果が継続しない場合もあるので、区内に増やしてはいません。通学路の安全対策については、局とも連携し、30kmの速度規制や過去の事故履歴等から学校を抽出して対策を進めています。具体的には今年度、二谷小と神奈川小学校区におきまして、ハンプ・狭さくといった物理的な速度抑制対策を計画しております。

宇佐美議員 イメージハンプは効果が続かないとは思っていなかったが、児童が安心して通学できる対策を計画しているということで、良かった。誰もが安心して暮らせる事業に引き続き取り組んで欲しい。

【議題2】

宇佐美議員 4頁「1 かながわ子育てかめっ子支援事業」の「(5) 子育て情報提供事業」にある「子育て応援マップ」を冊子形態へリニューアルということだが、リニューアル前がどのようなものかわからないので、リニューアル前と後のマップが欲しい。次に6頁「2 高齢者支援事業」の「(2) 認知症高齢者支援事業」の才にある9月23日の神奈川公会堂で行うイベントに著名人が来ると聞いたが、講演料はどこから出るのか。

浅野高齢・障害支援課長 動画等による認知症に関する理解促進の取組の一つとして予算を組んでおりましたが、このたび講師や日程等が決まりましたので講演会の開催を明記しています。

宇佐美議員 動画を作らずに講演会を行うことにしたのか。動画はもう作らないということか。

浅野高齢・障害支援課長 動画につきましては、令和6年度予算で作成していますので、令和7年度はその動画を活用して認知症の理解促進に向けた普及啓発を行います。

宇佐美議員 次に20頁の「16 神奈川区制100周年事業」の区民アンケートだが、467件の意見をいただけたとのことだが、いつまでにまとめるのか。イベントを開催するために意見を生かすということか。

佐藤区政推進課長 意見については、11月に実行委員会が立ち上がりますので、そこまでにアンケートの結果をまとめて、実行委員会で考えていきます。委員会の中でテーマ、コンセプトに生かしていきたいと考えています。

宇佐美議員 多くのご意見をいただいたので、ちゃんと生かして欲しい。次に29頁「24 地域防災力向上事業」の「(1) 地域防災力の強化」ウの次世代につなぐ防災ということで、避難所の理解促進を図るためにデイキャンプを行うということだが、理解ができたうえで、今後どうしたら、避難所が良くなるのか、避難しやすいものかどうか、アイデアをもらうのはどうか。

宍戸総務課長 この防災デイキャンプは、小学生を対象といいましても、保護者の方も参加されますので、方法は検討中ですが、アンケート等でご意見をいただきたいと考えています。

宇佐美議員 経験した小学生の皆さんの中には、事業に生かしていく意見もあると思うので、多くの方にアンケート書いてもらう工夫

が必要と思うがどうか。

宍戸総務課長 デイキャンプのメニューの中には、トイレパックの使用体験があり、これは自分で段ボールキットからトイレを作っていただきトイレパックを利用いただくものです。エアーマット体験については、市民防災センターの訓練室に1人分のスペースをテープで区切り、エアーマットを膨らませて寝転がってもらい、避難した際のスペースを体験していただく予定です。また、防災食につきましては、協力企業から電気自動車をお借りできましたので、給電しポットでお湯を沸かし保存食を温めて食べていただく等、実際の避難所のイメージを持っていただければと考えています。

宇佐美議員 楽しいばかりではなく、辛かったという思いも改善につながるので、実践的なものになるように工夫して欲しい。

竹内議員 防災デイキャンプは、9月20日実施ということだが、イベントとしては、ぼうさい縁日だと思うが、全体感がわからない。消防じゃないとわからないか。

宍戸総務課長 ぼうさい縁日は、市民防災センターで毎年9月に防災イベントを行っていて、2000人～3000人の方に参加いただいているイベントです。このイベントに同時開催として、防災デイキャンプも参加させていただく形になります。防災デイキャンプには、トイレの関係で資源循環局、ハマッコトイレの下水道河川局や民間企業も含めて参加ができるイベントになっています。

竹内議員 ぼうさい縁日もだが、前にも話したと思うが、お子さんを対象としたイベントには、保護者の方も来ていただけるので、こういうイベントは非常に大事である。お子さんの興味のありそうな楽しみがあるということが大切だと思う。丁寧にやって欲しい。

次に、16頁「11 地域福祉保健活動推進・支援事業」の「(1) 区計画の推進及び策定」の新規事業の小学校の出前教室として計画の普及啓発強化を幸ヶ谷小学校と羽沢小学校で行ったようだが、ボリュームがある

話で、さまざまな視点があると思うが、どんな反響があったのか。

栗山福祉保健課長 幸ヶ谷小学校では、5年生全体約120人を対象にしました。羽沢小学校の方は、6年生の1クラス24名の方に参加いただきました。最初に地域福祉保健計画の概要を説明し、グループワークを行い「どういう街になると住みやすいと思いますか」と「そのためにはあなたは何ができると思いますか」というテーマで議論していただきました。一つ目のテーマでは「みんなで助け合える街」「みんなが笑顔の街」「ポイ捨てがない街」「治安が良い街」という意見がありました。二つ目のテーマでは、「困っている人がいたら助けたい。」「地域のイベントに積極的に参加したい。」「地域の人と協力したい。」「防犯カメラをつけたらどうか。」という意見がありました。出前教室を通じていただいた声としては、「地域のイベントが地域の大人の人たちが地域のことを考えて行ってくれているということを初めて知りました。びっくりしました。」というような意見をいただきました。また、「地域活動を多く行って、地域の人と協力していきたい。」「地域のイベントに参加して、街の人と仲を深めたい。」「人と人とがつながることの大切さがよく分かった。」のような意見をいただきました。

竹内議員 このようなお子さんがいっぱいいると、神奈川区の将来は明るいと思うが、地域コミュニティも地域の方が苦労されている。コミュニティ自体が仕掛けないとできない時代。お子さんの支援というのは非常に大事だと思う。そういう視点をもって、各担当課が様々なこと考え、100周年の時代にあって、その後の100年の神奈川区を支えていく世代を指導して欲しい。

藤代議員 感震ブレーカーの設置の推進にあたっての課題、神奈川区なりの課題もあるが、18区の課題もある。その辺の認識はどうか。

宍戸総務課長 感震ブレーカーにつきましては、平成25年度から横浜市として、助成制度を作り10年程助成してきています。神奈川区は市内でも1位の実績があり、他の区に比べて、非常に多くの方に申請していただいている。しかし、この感震ブレーカーの必要性、大切さが区

民の皆様に理解をしていただけていないと思っています。令和5年度の調査では、設置していると答えた方が、11.7%ということで非常に低いと思っています。それから神奈川区は重点対策地域も市内で一番広い面積を持っていますので、神奈川区の設置が市全体の設置に非常に大きな影響を与えると考えています。令和6年度の設置実績は226件でしたが、今年度は8月時点で445件ということで、少しずつ理解をしていただけてきていると考えています。

藤代議員 10年程前からということだが、神奈川区は当初から感震ブレーカーの設置に力を入れてきた。神奈川区の広がりが大切なので、もう少し他区の状況を把握して、取り組んで欲しい。それと資料の写真は、バネ式だが、タイマー式というのもあるが、関係なく助成しているということか。

宍戸総務課長 資料の写真はバネ式ですが、感震ブレーカーには、4種類あります。おもり玉式、コンセント式等、同じように広報しています。ご自宅の分電盤や状況によって、設置する種類が変わってくると考えています。

藤代議員 これから開催される区民まつりを広報として利用するのも一つの手だと思う。次に、防災デイキャンプについて、9月20日に防災センターで行うということだが、開催してみて課題などの検証が必要かもしれないが、ある程度継続していきたいという考え方。どういう取組を考えているのか。

宍戸総務課長 昨年度は、親子向けワークショップを、参加人数30人程度の小規模で行いました。参加していただいた保護者の方やお子様から、備蓄がこんなに必要なのか、地震火災ってこんなに大きな火事が起くるんだという多くのご意見をいただきまして、今年度はできるだけ多くの皆様に参加していただきたく、ぼうさい縁日と協力させていただいている。可能であれば、今後も参加していきたいと考えています。

【議題3】

	<p>田中議員 神奈川区の人口は、毎月増えている、世帯数も増えている。数日前に、何かの記事に神奈川県内で一番人が増えている地域だと書いてあった。行政課題と捉えて記者が書いたものだと思う。そういう中で、この自主企画事業費を含めて、区制 100 周年もあり、もっと予算を取ってくるべきだと思うが、取組や考え方について聞きたい。令和 6 年度と令和 7 年度を比べても予算が若干減になっている。人口が増えている中でのコミュニティづくり等、大事な神奈川区の課題だと思うが、やることも満載だという中で、どうやって事業を進めるのか、予算確保も含めて区長の考えはどうか。</p> <p>鈴木区長 市全体として財政はかなり厳しいと考えています。そういう状況下では区の方でも工夫が必要で、防災キャンプもそうですが、浅野高齢・障害支援課長からも説明しましたが、認知症の講演会等も、昨年作成した動画を活用しながら、多くの方に認知症を啓発するために、有名な方をお呼びして、大勢の方に集まつていただく工夫をしました。防災デイキャンプも単独で行うのではなく、ぼうさい縁日に一緒に参加することで、大勢の方に来ていただくチャンスが広がります。やり方の工夫を広げていきたい。また、区づくり推進費だけでは厳しいところがありますが、局予算・局事業をうまく使って、区づくり推進費と合わせせることで効果を上げていく。そういう工夫が求められていると思っています。</p> <p>田中議員 コストカットするなど、選択集中ということだと思うが、区民の方に広くリーチする区政推進をして欲しい。</p>
備 考	